

— フィジカルアセスメントモデル Physikoをベーシックオスキーに活用



「フィジカルアセスメントモデル Physiko」を活用した実習対象「医学部4年生」

医学部の4年生対象「フィジカルアセスメント」の実習。最初に先生が出欠をとっている間にも遅れて入室する学生がひとりふたり。

いよいよ、血圧の話が始まった。早速 血圧って何の値ですか？ 二つの答えを示して、手を挙げさせる。答えは、実はどちらも正しいです。

血圧の定義や測定方法の説明のあと実際にお互いに測ってみます。指三本でそっとプロらしく。上腕動脈はどこにありますか？

コロトコフ音を聞く実習が続きます。こういう音だと理解して聴きに行くから聞こえるかと先生がおっしゃいます。知識と技術の関係ですね。...

次は、フィジカルアセスメントモデルの3つの音を使った実習です。2体のフィジコを8人ずつ囲み、1台は近藤先生が、もう1台は森山先生が担当してピタリ同期して進めます。近藤先生と阿吽の呼吸で助手を務める看護専門学校のパレラン教師、森山幸子先生。

森山先生は、かつて私の手術チームの主力メンバーでフィジコに精通しており特別に来ていただきました。

瞳孔反射 ペンライトの光に反応するフィジコの瞳孔の動きにみんなから歓声があがる。

呼吸音 なかなか思うように聞こえません。聴診器の持ち方から始めることも。意識を呼吸音に合わせてスースーという音を聴きま

すと質問されて学生が戸惑う。捻発音や水泡音などを聴き症状を推測させ、きちんと表現するように問いかけます。



私立医科大学の草分けとしての誇りを背に、今日も明日もセンターは私の居場所

心音 さきほどの呼吸音とは違います。心臓の音はどんな音ですか？に始まり、聴く位置、収縮期の音が、拡張期の音かの聴き分け、「I音とII音を間違えるのは、パンツを後ろ前にはいているようなもの、医学生じゃねえ！」と、一喝しつづ、正常から僧帽弁不全など病気の心音まで学生の様子に合わせ選別し聴診させてゆきます。どれだけ多くの人の心音を繰り返し聴いたかが大切ですよ。心臓の動きを常に頭にイメージしながら聞くのがコツです。

心電図 今年の国家試験に心電図誘導ができました、今後ますます実技をしていらないと答えられない問題が増えると思います。と先生がその問題を実際に見せます。

先生は、「アケミちゃん」森山先生は、「セキグチちゃん」と心電図の位置を覚えたそうです。

浮腫 フィジコの足に取り付けた浮腫触診モデルで、実際に実習。ものすごくリアルにつくられています。実際に心臓が悪かったりするとこんなふうになります。

こうして、90分の実習はあっという間に終わりました。

医学教育におけるシミュレータの活用 — 近藤先生よりのメッセージ —

医学部4年生は座学が終了し、年度末にOSCEという臨床実習へ入る前の試験が義務づけられています。これに失敗すると5年生の臨床実習に入れません。従来OSCE直前に3週間程の実習期間を設けていましたが、試験が終わるとすっかり忘れてしまい、臨床実習で役に立っていないことが指摘されました。そこで4年生の前半にもフィジカルアセスメント実習を入れて、体で覚えてもらおうと提案し、実現したものです。

フィジコを使用する理由は明解です。操作が簡単であることと、一台でこれほど多機能を有するシミュレーターはありません。この実習のあと当センターでフィジコを使って自己学習する学生の姿が少なからず見受けられ学生の反応は良いと思っています。また、6年生初めにAdvanced OSCEが組み込まれています。ここでは通常のOSCEより数段高度な試験が行われます。そのためには目的別に作成された高度なシミュレーターが必要であり、イチコロとフランクはぴったりです。



センターの5つのオリジナルメニュー

1年365日・24時間の開放
思い立ったとき、少し時間が出来た時にいつでも学ぶことができるようにしています。

遠隔操作で全体システムを構築

①入室管理システム、②監視システム、③運用管理システムが連動して、キャリア支援センター事務局で使用者、物品、利用状況などを一括してデータ管理されます。システムを構築した栗山課長は、「いつでも公開しており他の施設でもどんどん活用していただければ幸いです」と熱っぽく語っておられます。お問い合わせ大歓迎 072-684-7208

e-Learningを構築、自宅でも学べる体制

血圧測定や採血をはじめと必要医療技術が項目ごとに整理され、学生や研修生は、自宅でも学ぶことができます。医学部、レジデント、新人看護師・認定看護師を含む看護師看護学生すべてに開放

医学部3年生で基本的臨床技能を学び、4年生でフィジコを活用したフィジカルアセスメントを実習します。その後OSCEに合格した学生はクリニカルクラックシップへと進み、実地臨床を学びます。また、看護師には外筒の付いた留置針の操作が認可され、模擬腕(シミュレータ)を用いたの穿刺訓練が行われています。さらに復職希望看護師の支援講習会を高槻市・医師会と共同で定期的に開催しています。

外科道場 マイスターからインストラクターへランキング認定

外科・小児科の医師が少なく啓発・可能性に目覚める機会にねばと毎週火曜日と金曜日、外科道場を開いています。模擬血管を縫合したものがありましたが実に細かい仕事でまさに「技」でした。

編集後記

第一印象は、言葉では言いようのない、チヨ、自然体で多忙さを微塵も感じさせない知的風体。「中庸」「高潔」「熟慮」という言葉が浮かびます。先生に「座右の銘は何ですか」とお聞きしたら、「ま、いっか！」「かな」とのお返事。先生は、静岡出身でよく使ってきた方言たそう独特なイントネーションと音の響きが不思議なハーモニーでした。「ま、いっか！」すべてを受け入れ、「ま、いっか」と自分を天に託してやるべきことを淡々と行っていらっしゃるのか、と想像しました。

後日先生から、本日は「隠れての信は頼られての徳」が座右の銘だけと「ま、いっか」の方が自分らしいので」とコメントをいただきました。帰りに偶然垣間見た、スタッフのいる事務所で遅い昼食をなさっておられる姿がチャームングでした。貴重なお時間をいただき感謝申し上げます。

京都科学は現場からのフィードバックを通して、メーカーとして学びます。

センター長：近藤敬一郎 教授を訪ねて

～医学部4年生の演習 於：メディカルトレーニングサポートセンター

大阪医科大学・附属病院の沿革



大阪医科大学・附属病院（右の7階建が新館病棟）



ヴォーリスが設計した建物。国の有形文化財に指定され、現在は歴史資料館として公開されている。

参考URL：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/trad/gaiyou.html>
<http://ja.wikipedia.org/wiki/ウィリアム・メレル・ヴォーリス>

明治から大正を経て、日本の医学教育は当初模範としたドイツ医学から米国の医学の導入、さらに日本独自の体制へと大きく変化の時期を迎え、より新しい医療教育機関の設立が求められました。また国の行政や教育体制も関東大震災を機に一極集中型から分散型へと志向される時代背景の中で、大阪医科大学（旧大阪高等医学専門学校）は、1927年（昭和2年）に日本最初の私学5年制医学専門学校として大阪東淀川区に開校、1929年（昭和4年）には「附属看護婦学校」が設置されました。1930年（昭和5年）にヴォーリスの設計による新校舎（現在の高槻市大学町）に移転、同年5月に附属病院（当時の三島病院）が開院しました。2007年（平成19年）には創立80周年を迎え、創立より約4000名の看護婦・看護師と約9000名もの医師を輩出してきました。2010年（平成22年）4月には新たに看護学部を開設、現在文部科学省選定の2つの大きなプロジェクトも遂行中の、関西を代表する医科大・大学附属病院として地域に密着した存在となっています。



写真左より、卒後臨床研修センター 課長 藤永氏、キャリア形成支援センター 課長 栗山氏、キャリア支援センター長 近藤教授、メディカルトレーニングサポートセンター専任事務員 上東さん、キャリア形成サポートセンター専任事務員 古瀬さん

プロジェクトの詳細URL：
<http://www.yodogawa-traces.jp/index.php>
<http://www.kinkijunkan.jp/index.php>
<http://hospital.osaka-med.ac.jp/about/history.html>

思い立ったが吉時、いつでもだれでも学ぶことができる、365日24時間体制のメディカルトレーニングサポートセンター

メディカルトレーニングサポートセンター設立の背景

大阪医科大学では、2008年（平成20年）7月に文部科学省の「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に申請した「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム」が採択されたことをきっかけに、同年10月、大阪医科大学が経営指針としてきた「良医の育成」と「地域社会との共生」をさらに計画的に支援することを目的として、「キャリア形成支援センター」が新設され、センター長に近藤敬一郎教授が就任しました。翌2009年（平成21年）には、同じく文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に「淀川リバーサイドメディカルトレーニングサポートプログラム」が採択され、医学教育の充実に向けた有機的・効率的な教育環境を実現するため、同年、これまで学内各所に置かれていたトレーニング機器およびシミュレータなどの教育資源を一箇所に集約し効率的に運用するべく「メディカルトレーニングサポートセンター」が附属病院内に開設されました。今回は、キャリア形成支援センターのご協力で、現在センターで医学部4年生を対象に行われている「フィジカルアセスメントモデル Physiko」を活用した実習をレポートします。

メディカルトレーニングサポートセンターの概要

○メディカルサポートセンターは、2009年（平成21年）10月に設立されました。150平米の面積、管理棟の2階に位置しており、元内視鏡センター外来の一部だった場所です。設立にあたり、名古屋大・岐阜大・慶応大・横浜市立大・大阪市立大など講演を兼ねて見学し、「いいとこどり」をしたつもりです。

例：横浜市立大で使われていた頑丈なテーブル、大阪市立大からは積み重ねることができる丸椅子、ライフサポートベストをまねてスタートしました。

○センター設立にあたって特に2つのこだわりがありました。1. 病院の中に置くこと

※スタッフ・研修者の動線とマンパワーを考慮の結果、看護師更衣室の隣に位置。病院内に学生教育を入れることが必要と考えました。

2. 運営スタッフの充実

※派遣社員を1名そして看護副部長をスタッフに起用しました。

○利用状況

2010年4月～2011年5月の利用者6071名 累計7042名

メディカルトレーニングサポートセンター 職種別利用者状況

